

オルビスの東日本大震災復興支援活動が8年目に

2011年6月から「いつもプロジェクト」を立ち上げ、長期的な復興支援活動を現在も継続

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、社長:小林琢磨)は、東日本大震災の発生当初から継続している復興支援活動が、今年で8年目を迎えます。

オルビスは、震災直後の緊急的な物質面での支援とともに“少しでも早く被災地の方々が「いつも」の日常を取り戻せるお手伝いが出来れば”と「いつもプロジェクト」を立ち上げ、お客さまのご協力と社員のボランティア活動により、主に精神面に寄り添った支援活動を継続しています。

8年目を迎えた今年も、被災地域の置かれた状況が刻一刻と変化する中で、地域の方々のニーズを丁寧に汲み取りながら「未来志向」をテーマとした長期的な復興支援を行い、微力でも被災地域の方々の力となれるよう活動を継続します。

なおオルビスでは、2016年4月に発生した熊本震災を受け「オルビスくまもと未来基金」も設立、主に女性と子どもたちをサポートする団体への助成を継続して実施しています。

「いつもプロジェクト」とは

2011年6月より被災地支援を目的として開始したプロジェクトで、お客さまが通信販売やオルビス・ザ・ショップでお買い物をした際に還元される「お買い物ポイント」を寄付に使うことが可能[※]です。また、本プロジェクトオリジナルの限定商品を購入することで、一定額が本プロジェクトの活動資金となり、復興に向けた被災地域への寄付や支援活動へと役立てています。

※被災地支援に対する寄付ポイント受付は2018年3月末までを予定(支援活動は継続)

これまでの主な活動内容

2011年に宮城県へスキンケア品やシャンプーなどを提供するなどの物資の送付のほかに様々な形での支援を行ってきました。同年11月には、東北の被災地域のくらしをアートで支援している非営利団体「くらしのある家プロジェクト」をサポート。アーティストと住民の方が仮設住宅の壁一面に絵を描き、無機質な風景に彩りを添えました。2012年からは、国産の間伐材で作られた積み木で子どもたちが遊ぶ「森の積み木広場」活動へのサポートを開始。震災により屋外での活動が制限されていた子どもたちに対し、ストレスの発散と、森への関心を向けてもらうことを目的に、岩手県、宮城県、福島県内の52ヶ所で開催。子どもたちが遊ぶ積み木は、オルビスの社員の手により一つひとつ磨き上げられたものも使われています。



「くらしのある家プロジェクト」による仮設住宅の壁アート



「森の積み木広場」の様子

いつもプロジェクトの復興支援活動件数は約50件、総寄付金額は約1.4億円、ボランティア参加社員数はのべ240人にのびます。(2011年6月～2018年2月末まで)

今後の主な活動予定

「東北フードマラソン&フェスティバル」(3月25日～26日開催)への支援・協賛、「オルビスくまもと未来基金」への助成(12月予定)のほか、新たにこれからの未来を創り出す被災地域の若者たちの学習・教育支援につながるような活動も検討しています。

「いつもプロジェクト」の取り組みを専用サイトでご紹介しています。
社員による活動レポートも掲載。是非ご覧ください。

<http://www3.orbis.co.jp/itsumo/>